

【山口泰史ゼミナール】 フィールドワーク・活動

タイトル	課題解決型学習(PBL:Project Based Learning)の実践 (山口泰史ゼミ)
対象地域	栃木県
テーマ	若者の地元定着を推進するにはどうしたらよいか？
キーワード	栃木県, 若者, 地元定着, 人口減少, PBL, 持続可能な地域

帝京大学宇都宮キャンパスが立地する栃木県は、進学や就職を契機とした、地域からの若者の流出がみられ、将来的な人口減少や高齢化が懸念されています。それゆえ、行政では持続可能な地域に向けて、若者の地元定着を促進するさまざまな政策を展開しています。そこで、山口ゼミでは「若者の地元定着を推進するにはどうしたらよいか？」をテーマとして、課題解決に向けた競争型 PBL(Project Based Learning)を実施しました。15 人のメンバーを 5 人ずつ 3 チームに分け、テキスト輪読やワークショップ、アンケート調査などさまざまな課題にチーム単位で取り組み、最後にプレゼンテーション審査会を行いました。

● 県内企業を交えたワークショップ

栃木県では、栃木県での就職に関心がある首都圏の学生を対象に、「とちまる就活カフェ」を定期開催しています。今回は山口ゼミのために、特別に「とちまる就活カフェ in 帝京大学」を開催してくれました。県内企業 3 社が来学し、企業紹介だけでなく、PBL のテーマである地元定着(地元就職)の観点から学生との意見交換を行いました。折しも学生 3 チームと企業 3 社の組合せであったために、時間を分けて、すべての企業とすべてのチームとの交流がローテーションで実現しました。学生にとっては、ゼミのテーマである「若者の地元定着」を自分事として捉える良い機会になりました。(写真①～③)



写真①



写真②



写真③

● バンダイミュージアム(栃木県壬生町)

栃木県壬生町にはかつて、玩具メーカーが集積する、全国でも珍しい工業団地「おもちゃ団地」がありました。時代の流れもあり、現在では玩具メーカーはほとんどなくなりましたが、代わりに異業種の工場が進出して、今も工業団地は「おもちゃ団地」と呼ばれています。また、鉄道の駅は「おもちゃのまち駅」、住所表示も「おもちゃのまち〇丁目」と、壬生町では「おもちゃ」をメインとしたまちづくりに取り組んでいます。山口ゼミでは、かつてバンダイの研究所だった「バンダイミュージアム」を訪れ、地域の歴史・現在・未来についてお話をうかがうとともに、国内有数のおもちゃコレクションを見学しました。(写真④～写真⑥)

▽ LINK <https://www.bandai-museum.jp/>



写真④



写真⑤



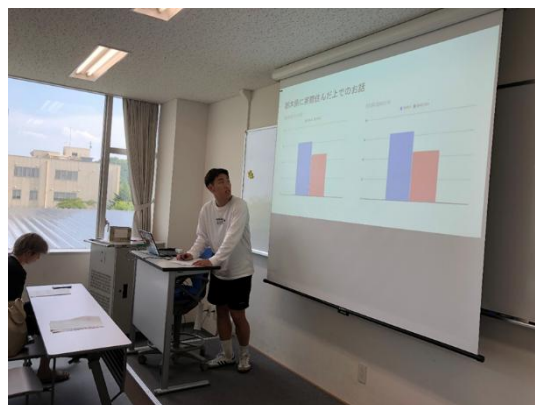
写真⑥

● プレゼンテーション審査会

これまでの学習成果を PowerPoint にまとめ、最終回のゼミでプレゼンテーション審査会を実施しました。審査員には、栃木県庁から 2 名、宇都宮市から 2 名、県内企業から 3 名の計 7 名に出席いただきました。各チームの発表について、「発表は分かりやすかったか」「提案内容は具体的だったか」「提案内容は実現できそうか」の 3 つのポイントをそれぞれ 5 段階で審査していただき、審査員の平均点(15 点満点)が最も高かったチームを優勝チームとして表彰しました。優勝チームのリーダーが喜びのコメントを行い、最後に栃木県労働政策課副主幹より講評をいただきました。(写真⑦～写真⑩)



写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩

以上